# 蒲田と鉄道路線網の発展

栗原　洋三

## はじめに

今話題のドローンを飛ばして蒲田駅の上空から俯瞰して見てみると、如何に交通便利なエリアであることを実感する。

東西に走る国道一号線（第二京浜）、国道三七号線（第一京浜　旧東海道）、南北に走る環状八号線、その真ん中に蒲田駅、東急蒲田駅、京急蒲田駅がある。

明治の時代は鄙びた農村であった蒲田は東海道線蒲田駅新設（一九〇四年）を機に交通便利な地となり、一九一四年（大正三年）に国産タイプライターの黒澤商店の工場創設をきっかけに近代工業を支える多くの企業がこの地に進出して来た。

また、大正一二年（一九二三年）の関東大震災による東京中心部の壊滅的被害から、郊外のこの地への工場移転と沿線住民の飛躍的な増により鉄道網も急速に発展していった。

それでは、各鉄道路線の歴史を調べて見る。

## ＪＲ（旧国鉄）

いわゆる陸蒸気（おかじょうき）が新橋―横浜間に開通したのが一八七二年（明治四年）のこと。

当初の駅（停車場）は新橋、品川、川崎、鶴見、神奈川、横浜の六駅であった。その四年後に大森駅（一八七六年）、蒲田駅は一九〇四年、大井町駅は一九一四年に開業している。

新橋―横浜　陸蒸気　開通　一八七二年
東京―大阪　東海道線　全通　一八八四年
新橋―高島町　京浜線　開通　一九一四年

## 東京急行電鉄

東急電鉄は渋沢栄一によって作られた田園都市株式会社（一九一八年 大正七年）から始まった企業である。

田園調布地区の住宅地開発から始まった事業はその鉄道部門を一九二二年、目黒蒲田電鉄として創立、一九三三年には池上電気鉄道、一九三九年には東京横浜電鉄（旧武蔵電気鉄道）を吸収合併している。

一九四二年に国策により小田急電鉄と京浜電気鉄道（京急）と合併して、現在の社名 東京急行電鉄に改称。一九四八年、三社は分離している。

池上線　蒲田―池上　開通　一九二二年一〇月　池上電気鉄道

（右）京浜電気鉄道
大森支線のレリーフ
（イトーヨーカドー大森店前）
（大田区大森北 2-13-1）

（左）池上電気鉄道
新奥沢線 新奥沢駅の記念碑
（世田谷区東玉川 2-40）

目蒲線　蒲田―目黒　全通　一九二三年一一月　目黒蒲田電鉄
池上線　蒲田―五反田　全通　一九二八年六月　池上電気鉄道
大井町線　大井町―二子玉川　全通　一九二九年一二月　目黒蒲田電鉄
東横線　渋谷―桜木町　全通　一九三二年三月　旧東京横浜電鉄

## 京浜急行電鉄

京急電鉄の母体となった大師電気鉄道は一八九八年（明治三一年）創立、翌年、川崎大師参詣客のための路線、六郷橋―大師間を開通した。電車としては京都市電、名古屋鉄道に次ぐ、関東では最古の歴史を誇る。その後京浜電気鉄道と社名変更、一九四一年に社名は京浜電気鉄道のまま、湘南電気鉄道と合併する。その後 東急・小田急との統合時代から分離し、一九四八年、現社名の京浜急行電鉄となる。

大師線　六郷橋―大師　開通　一八九九年　大師電気鉄道
本線―1　六郷橋―大森駅操車場前　開通　一九〇一年
穴森線　蒲田―穴守稲荷　開通　一九〇二年
本線―2　大森海岸―八ツ山橋　延伸　一九〇四年
本線―3　品川―神奈川　全通　一九〇五年

## 歴史から消えた路線

・池上電気鉄道・新奥澤線

一九二八年池上電気鉄道により中央本線の国分寺駅までの延伸計画のもと雪谷―新奥澤間が開通。一九三四年に目黒蒲田電鉄に吸収された翌年、不採算路線として廃線となる。わずか七年の運行であった。

・京浜電気鉄道・大森支線のループ線

一九〇一年開通の六郷橋―大森操車場駅（現在のＪＲ大森駅東口）路線は現在の第一京浜国道上を走る路面電車であり、現在の大森海岸駅から左折してＪＲ大森駅前までであった。その後本線の品川までの延伸により、大森支線となったが、一九三七年に廃線となっている。

終点駅であったため、方向転換のためにループ線となっていた。その形跡が現在の道路形状に残されている。またこの支線の歴史銘板が現イトーヨーカ堂大森店前にひっそりとある

## あとがき

鉄道網の発展が蒲田の町の興隆に大きく影響したことを述べてきましたが、羽田空港の存在を抜きに語ることはできない。

一九三一（昭和六年）東京空港として開港、一九四五年終戦後の米軍接収を経て一九五二年返還、東京国際空港として再出発、東京/日本の空の玄関口として大発展を遂げた。一九七八年、成田空港との棲み分けにより国内専用となっていたが、二〇一〇年には再び国際線も復帰して世界

のハブ空港のひとつとなりつつある。

二〇一二年の京急蒲田駅の大改築により上下線の高架化が完了、京急本線から羽田空港ターミナルまでの乗り入れが可能になり、都心／横浜方面よりの羽田空港へのアクセスが飛躍的に向上した。

ＪＲ蒲田駅―京急蒲田駅の間をつなぐ蒲蒲線が通れば、さらに東西南北からのアクセスが完成し、超交通便利な蒲田が誕生する。その時、街はどの様な表情になるのであろうか？

参考文献；


・街がやってきた（大正・昭和の大田区のまちづくり）　大田区立郷土博物館

・街と駅八〇年の情景　（株）東急エージェンシー

・京急電鉄オフィシャルサイト（ホームページ）京急歴史館